

データから読み解く 日本の少子化の要因

坂元晴香

東京財団政策研究所 主任研究員



東京財団政策研究所
THE TOKYO FOUNDATION FOR POLICY RESEARCH

© The Tokyo Foundation for Policy Research
All rights reserved.

日本の少子化の原因は・・・

- 若い世代の価値観の変化
- 若い世代が恋愛や結婚を面倒と思うようになった
- インターネットなど娯楽の多様化
- 女性の高学歴化
- 貧乏こたくさん

全てデータに基づかな思い込み・一昔前の価値観

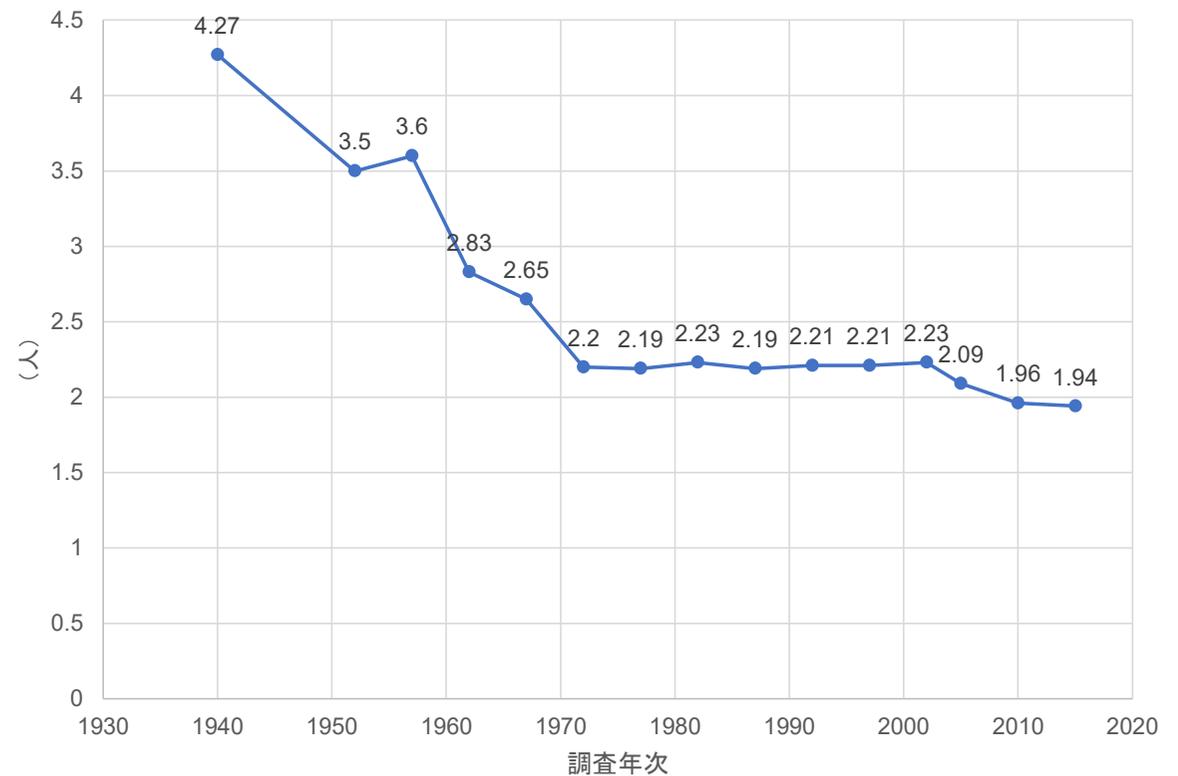
最大の要因は未婚者の増加

- 生涯未婚率（50歳時の未婚割合）

男性 2.60% 女性 4.45%（1980年）

男性 23.37% 女性 14.06%（2015年）

夫婦の完結出生児数はほぼ横ばいから近年緩やかに下降



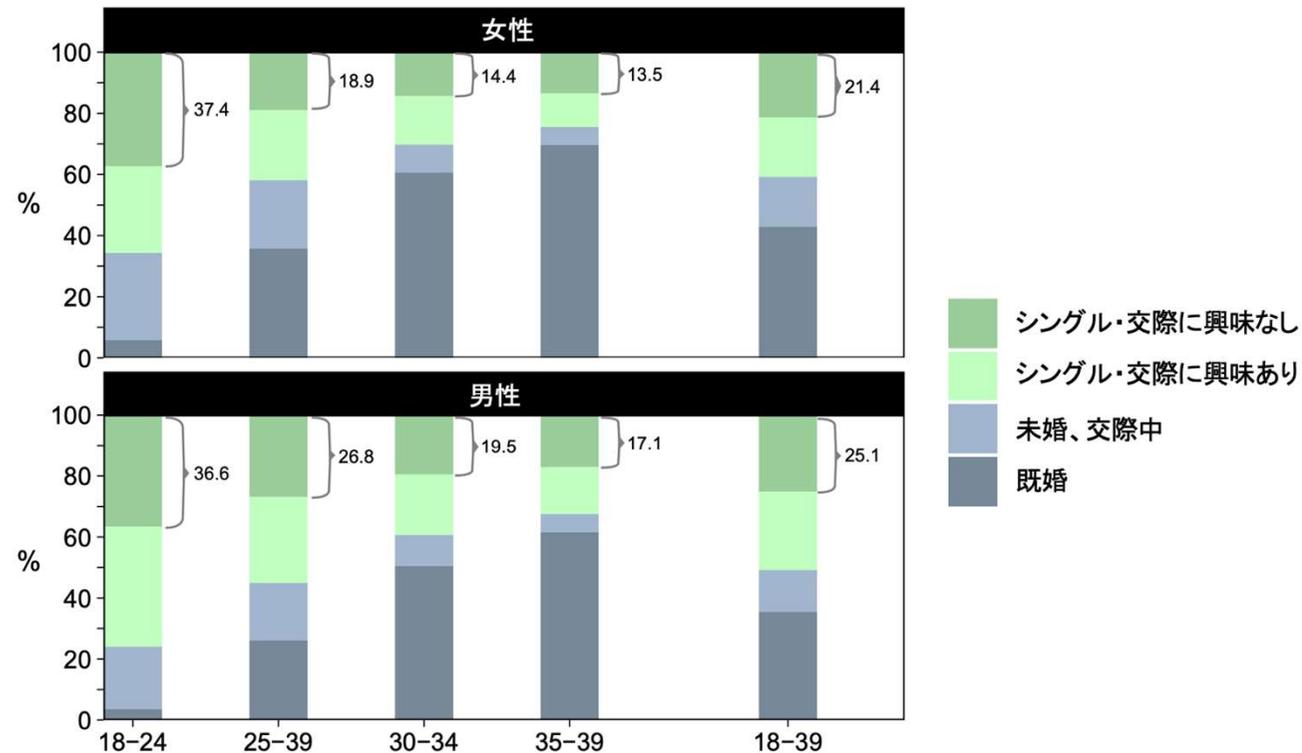
増える“草食化”の割合

18-39歳のシングル（未婚・交際相手なし）

- 男性 40.3% 女性 27.4%（1992年）
- 男性 50.8% 女性 40.7%（2015年）

- 同時期に未婚者の割合は増加。他方で、未婚だが交際相手ありの割合は横ばい → 未婚者の増加はそのまま“交際相手のいない未婚”に繋がっている “多様なパートナー関係”が増えているわけではない

- 異性との交際の興味
 - 18-39歳のシングルの半数が興味なし（男性全体の25.1%, 女性全体の21.4%）



Cyrus et al (2018)

炙り出される“恋愛・結婚格差”

低い収入及び学歴が異性との交際関係に関連

男性：

- 定職についている割合
既婚者 > 交際中 > 交際に関心のあるシングル > 交際に関心のないシングル
- 年収も同様の傾向
既婚者 > > > > 交際に関心のないシングル

Cyrus et al (2018)

| 年収 | 既婚者 | 交際相手あり | シングル（興味あり） | シングル（興味なし） |
|---------|------|--------|------------|------------|
| 0 | 6.8 | 33.0 | 40.7 | 48.2 |
| 100-299 | 16.6 | 26.0 | 24.8 | 28.2 |
| 300-499 | 44.5 | 32.7 | 27.4 | 19.7 |
| 500-799 | 27.2 | 7.7 | 6.7 | 3.8 |
| ≥800 | 5.0 | 0.7 | 0.4 | 0.1 |

異性との性交渉経験でも見られる“格差”

異性間性交渉経験が**無い人**の割合（2015年（括弧内は1987年 or 1992年））

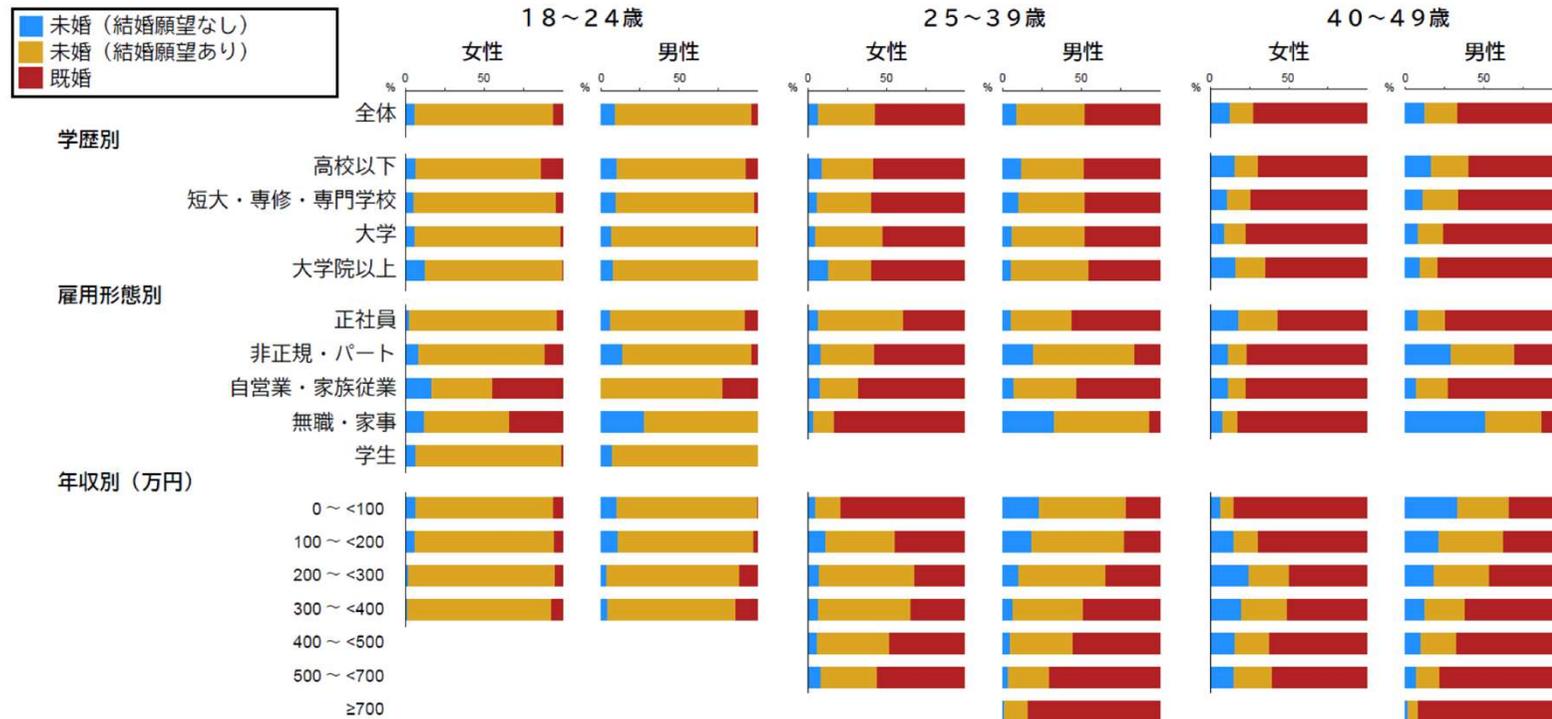
| | 男性 | 女性 |
|--------|-------------|-------------|
| 18-39歳 | 25.8 (20.0) | 24.6 (21.7) |
| 18-19歳 | 75.1 (74.9) | 77.5 (80.7) |
| 20-24歳 | 46.6 (41.9) | 44.4 (55.5) |

Cyrus et al (2018)

- 男性では、時短勤務・非正規雇用・及び無職が異性間性交渉未経験に有意に関係。年収増加に伴い、未経験の割合は減少

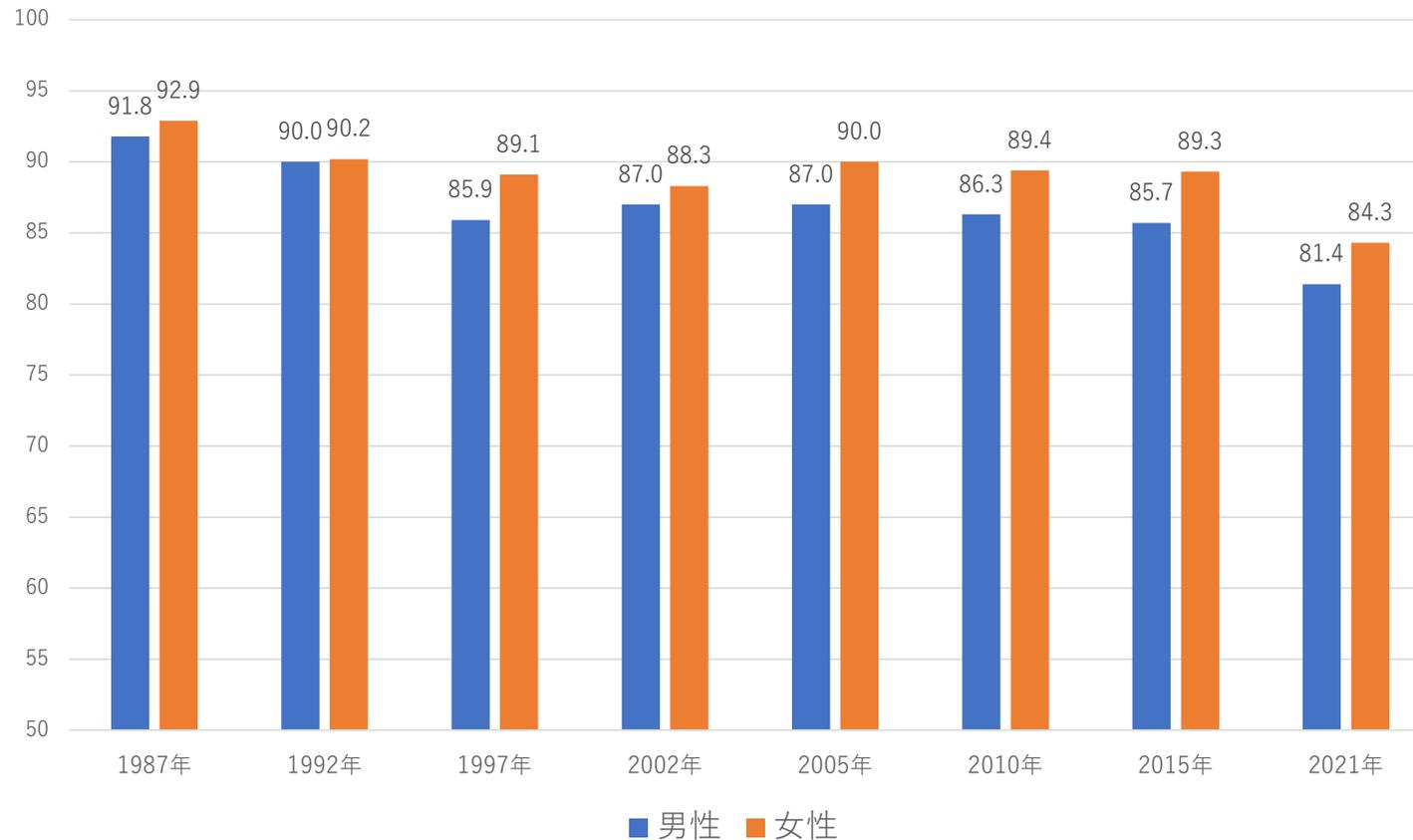
婚活市場のミスマッチ

- 女性（18-49歳）では、収入と婚姻の関係はU字型で収入が最も少ない層と収入が最も高い層で結婚している
- 男性は収入が高いほど結婚している



変わらない結婚願望

未婚者のうち「いずれ結婚するつもり」と答えたものの割合（18-34歳）



子どもの数にも現れる“格差”

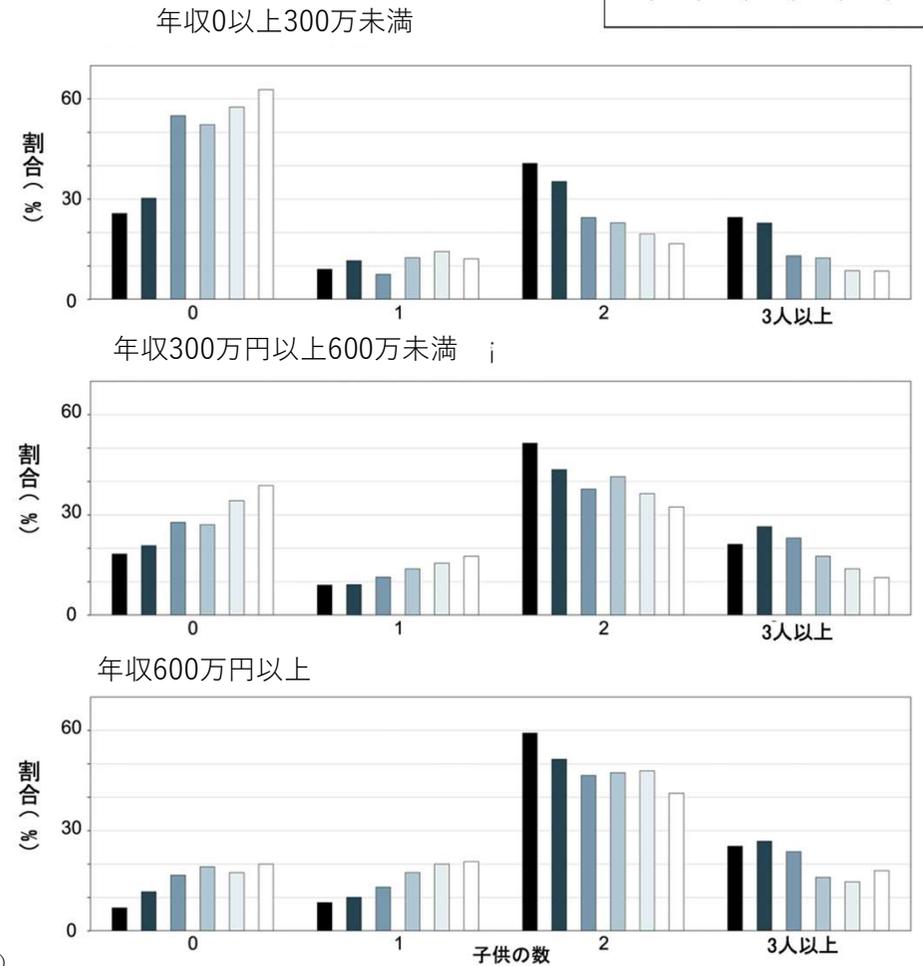
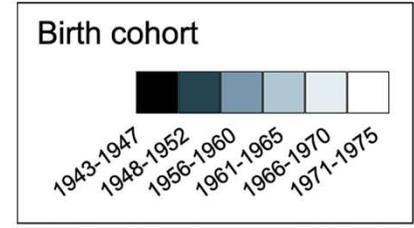
子どもを持たない人の割合

- 男性 14.3%, 女性 11.6% (1943-1947)
- 男性 39.9%, 女性 27.6% (1971-1975)

- 男性では1943-1975年のどの年代に生まれた人でも収入が高いほど子どもを持つ割合が高い（学歴も同様の傾向）

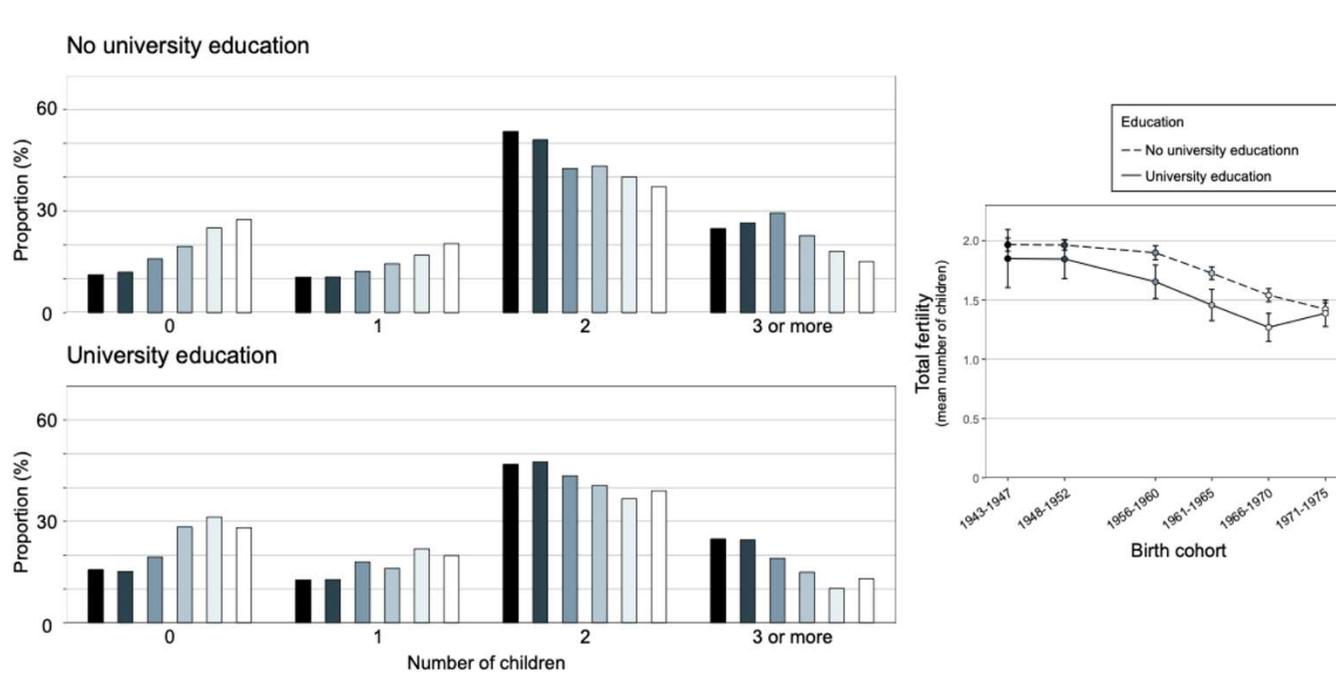
男性で子どもを持たない割合

- 25.7% → 62.8%（年収300万）
- 6.9% → 20.0%（年収600万）



女性の高学歴化は少子化の原因なのか？

- 1956-1970年の間に生まれた人では、大卒の人ではそれ以外の人と比べて子どもを持っている人の割合が少ない
- 1971年以降に生まれた場合は、大卒とそれ以外で差異は見られなくなっている
- 北欧諸国では“逆転現象”が生じている — 40歳時点では高学歴女性の方が子どもを有する割合が高くなっている
- 経済的理由を背景に若い世代での家族形成・子供の有無の価値判断に変化（日本でも高収入女性がより結婚する）



セクシャルアクティビティの実態

性的指向 (2022年)

| | 異性愛者 | バイセクシャル | ホモセクシャル | アセクシャル |
|----|-------|---------|---------|--------|
| 男性 | 87.4% | 3.4% | 2.0% | 6.9% |
| 女性 | 82.9% | 5.5% | 0.9% | 10.0% |

※ 日本の公的統計では異性間以外の関係性を捉えることができない

Cyrus et al (2023)

※ アセクシャルの割合は欧米では1%程度

- 過去1年間の性交渉経験 (性産業従事者含む) 男性 13.2% 女性 13.0%
- 過去1年間の性交渉相手なし (性産業従事者含む) 男性 44.5% 女性 45.3%

➡ 欧米と比較しても不活発な実態が明らかに。回復しない出生率の背景？

Key message

- 少子化やその背景にある未婚者の増加は決して、“若い世代の価値観の変化”“娯楽の多様化”“女性の高学歴化”で片付けられる話ではない
- むしろ、“就職氷河期世代”とその後に続く“停滞した社会”の犠牲。個人の責任に帰すのではなく、マインドセットの変化・社会構造を変えることが必要
- データに基づく政策を — 結婚している/していない層は誰なのか、子どもを持つ/持たない世代は誰なのか。“貧乏子沢山”は間違い

参考文献一覽

1. Cyrus Ghaznavi, Peter Ueda, Ayako Okuhama, **Haruka Sakamoto**. Sexual Behaviors among Individuals Aged 20-49 in Japan: Initial Findings from a Quasi-Representative National Survey, 2022. *Journal of Sex Research*. 2023.
2. Ghaznavi C, **Sakamoto H**, Yamasaki L, Nomura S, Yoneoka D, Shibuya K, et al. (2022) Salaries, degrees, and babies: Trends in fertility by income and education among Japanese men and women born 1943–1975—Analysis of national surveys. *PLoS ONE*. 17(4): e0266835.
3. Ghaznavi C, **Sakamoto H**, Nomura S, Kubota A, Yoneoka D, Shibuya K, Ueda P. 2022. Fish in the sea: Number, characteristics, and partner preferences of unmarried Japanese adults-analysis of a national survey. *Plos one*, 17(2), e0262528.
4. Ghaznavi C, **Sakamoto H**, Nomura S, Kubota A, Yoneoka D, Shibuya K, Ueda P. The herbivore’s dilemma: Trends in and factors associated with heterosexual relationship status and interest in romantic relationships among young adults in Japan—Analysis of national surveys, 1987–2015. *PLoS ONE*. 2020; 15(11): e0241571.
5. Ghaznavi C, **Sakamoto H**, Yoneoka D, Nomura S, Shibuya K, Ueda P. Trends in heterosexual inexperience among young adults in Japan: analysis of national surveys, 1987 - 2015. *BMC Public Health*. 2019;19:355.

ご清聴ありがとうございました